

コロナショックの影響！

日刊木材新聞で5回にわたりアンケート結果の特集がありましたのでその要旨を纏めてみました。コロナの感染防止と経済停滞に対する影響の判断は多岐にわたっており、特に住宅着工数についてはリーマンショック以上の影響を心配する声が多い。昨年10月の消費税率引き上げの前の7月から新設住宅着工数は前年同月を9か月連続で下回り続けている。緊急事態宣言は解除されたとはいえ、これまでの物流・人の動き等考えれば今後急激な着工減になり、年間着工数70万戸を下回るのではとの悲観的な予測もある一方、建て替え需要はあるので比較的早く回復するとの楽観的な予測もあります。又、テレワークやeラーニング、遠隔診断などリモート診断を取り入れる動きもあるようです。物流の受発注等事務手続きは大きく変わるかもしれません。モデルハウスの予約見学やホームページやインスタグラムなどによるVR(バーチャルリアリティ)で代用する等行われていますが、コミュニケーション不足等、まだ難しい面もあるようです。現場作業や資材搬入などはやはり人手に頼るしかなく、パネル化等現場作業の簡素化が進むものと思われまます。また都市部ではコロナ後、中断した工事の再開などで職人不足の心配もある。身近な職人さんとの連携も必要になりそうです。

グローバル化で海外進出が進んできた資材メーカーも今回のコロナの影響で打撃を受けただけに国内への回帰も予想される。国産材も、安定供給へ向けた取り組みが更に見直されそう。JASの普及促進も気になります。これまではコストだけで流通していた一般材(非JAS)の動向がどうなるのか？ 非接触型、抗ウィルス、換気、健康、快適等、「新しい生活様式」に商機を見出そうとする住宅や建材に対するキーワードも上がってきている。田舎暮らしの見直しに期待したい。

【情報】

内装木材が不眠症緩和の可能性！

森林総研や筑波大学・帝京大学等の共同研究で住環境について、男女671人にアンケート調査を行った結果が発表されました。寝室に木材等を多用した場合は不眠症の疑いのある人は25.3%で、安らぎを感じている人の割合は86.6%だった。一方、木質建材等を使っていない住宅では不眠症の疑いがある人が39.8%で、安らぎを感じている人は70.8%と、その差は-14.5%と15.8%でした。年齢や性別でも同じような傾向であった事で、住空間に木質材料を多用する事の有用性が証明されたことになりそうです。

【定休日】

6月は6, 7, 13, 14, 20, 21, 27, 28日

7月は4, 5, 11, 12, 18, 19, 25, 26日となります

宜しくお願いします



(加世田市子育て支援施設 木漏れ日のある庇)